

阿岐のまほろば

Vol. 4

街中で戦国時代の館跡発見

山崎遺跡 (西条西本町)



堀の掘削風景

山崎遺跡は、西条西本町に所在します。市道西条中央巡回線の新設工事に伴って、平成6年6月から7月まで発掘調査を実施しました。

調査の結果、戦国時代と推定される館跡の西端を区画した幅2.5～3m、深さ1.5mの堀や、それに架かる橋の橋脚、井戸、鍛冶場跡などが明らかになりました。遺構の状況からすると、館の中心部分は調査区域の東方に広がっていたと考えられます。

出土した遺物は、煮炊きに用いられた土鍋や碗・皿などの食器類、備前焼の壺、フイゴの羽口などがありました。また、普通では残りにくい漆碗や箸、まな板、四角いお盆、さらに金箔を貼った脚や漆を塗るためのヘラ、細工に使われた木切れなどが堀や井戸の中から多量に出土しました。

食器類のなかには、大内館（山口市）から出土する皿と類似したものもあります。この館の主は大内氏と関係があったのでしょうか。



山崎遺跡位置図 (1:50,000)

出土した様々な遺物

山崎遺跡からは、土師質土器・陶器・木製品・フイゴの羽口・鉄滓など様々な遺物が出土しました。ここでは特に注目されるものを概観してみましょう。

井戸から出土した木製品のなかには、木簡がありました。上部が欠損していますが、楷書で丁寧に「□處盡巴月」と書かれています。これを読み下すと「□の處(処)、巴月に盡(尽)きる。」と読めます。



木簡

巴月は、名詞と考えるのが自然ですが、大漢和字典にもこのような用例は認められません。しかし、漢詩を作る際の参考に用いられる韻書のひとつである清時代に編纂された『佩文韻府』によると、李白(唐)・林希逸(宋)・馬祖常(元)の作品に「巴月」の用例が見られます。

このことから、この木簡が漢詩の一節を書いたものと想定すると、禅宗では卒塔婆に漢詩の一節を用いることもあり、信仰に関連するものと考えられることもできます。

また、漆塗りの椀が堀や井戸の中から4点出土しました。いずれも渋下地の上に黒漆を塗ったもので、外側に朱漆で扇や花の簡単な絵が描かれています。一般的に漆椀はロクロで形が整えられて



漆塗りの椀

いますが、山崎遺跡から出土したものはロクロを使わずに形を整えています。

決して高級品ではありませんが、当時の職人たちの感性がうかがえ、興味深いものがあります。

鍛冶場に伴うと考えられる穴のひとつからは、多量の炭や灰とともにフイゴの羽口や鉄滓、風炉などが出土しました。風炉は茶の湯に使う火鉢ですが、底に鉄滓が溶着しており、一部は土器を溶かして外側に流れて固まっていた。

溶けた余分な鉄を保管する容器として風炉が利用されていたのでしょうか。



鉄滓が溶着した風炉

弥生時代の足跡

にしあずまこ たぐち
西東子遺跡（西条町田口）



西東子遺跡の作業風景

踏み荒らされた畑

西東子遺跡は、西条町田口に所在します。ほ場整備に伴い、平成6年4月から9月まで発掘調査を実施しました。

調査の結果、弥生時代の畑と考えられる遺構や古墳時代の住居跡などが明らかになりました。

弥生時代の畑と考えられる遺構は、後世の水田によって大半が壊されていました。このため明確な区画は不明ですが、10×15m程度の範囲に植物株の痕跡とともにヒトやウシ・イノシシなどの動物の足跡が数多く見つかりました。

ウシは、洪積世のころから野牛として生息していたようですが、一般に古墳時代に飼養技術が普及したと考えられています。しかし、最近の調査では九州や関東地方で弥生時代でもウシの飼育が推定されています。西東子遺跡の畑を歩いたウシはどうだったのでしょうか。

なお、この畑で栽培されていた植物については花粉やプラント・オパールなどの土壌分析を進めています。



ヒトの足跡



ウシの足跡



西東子遺跡位置図（1:50,000）

海を渡った土器

西東子遺跡では、弥生時代の土器が多量に出土しましたが、そのなかに豊後地方（大分県南部）で作られたと考えられる壺がありました。

この壺は、たまねぎ形の強く張った胴体に大きく開く口と平らな底をもつものです。口のまわりには刻目、胴体には直線と円弧を組み合わせた文様が描かれています。時期は弥生時代中期のはじめごろです。

このようなプロポーションと文様が描かれた壺は「下城式土器」と呼ばれ、大分県の南部、別府湾を中心とした地域に広がっていました。

九州島以外では、はじめて出土したため、先日大分市歴史資料館で展示されました。



西東子遺跡出土の壺

弥生人たちは、この壺に何を入れてやって来たのでしょうか。



浜遺跡出土壺（大分市）

☆西東子遺跡で発見した動物の足跡の鑑定については、広島市安佐動物公園の飼育課の皆さんにお世話になりました。改めてお礼申し上げます。

☆『阿岐のまほろば』は、東広島市内の発掘調査を速報的にお知らせするため、無料の不定期刊行としています。市役所・市民文化センター・図書館などでお受け取り下さい。また、在庫がない場合は直接文化財センターにご連絡下さい。

（財）東広島市教育文化振興事業団 文化財センター報

阿岐のまほろば Vol.4

発行日 平成 7 年 1 月 10 日

編集・発行 財団法人東広島市教育文化振興事業団 文化財センター
東広島市西条町大字馬木541-1

TEL 0824-25-3880 〒724-05

印刷 株式会社 ニシキプリント